

# みらいん

31号  
2014年  
7月

自主運営の交流活動が活発化!

## 私たち、交流グループ つくりました。



前略 お元気ですか／表紙のひと  
みらいん編集部取材ダイアリー  
沿岸部復興ニュース／これから住むまち  
読者からひとこと／交流サロン紹介  
クロスワードパズル／ふるさとにごつつおさん

「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。



## ごあいさつ

仙台発 震災復興 地域かわら版「みらいん」は、復興に向かう仙台市東部沿岸地域の現在の様子、仮設住宅のコミュニティづくり、生活再建に資する情報などをお届けするため2011年12月に創刊されました。

震災から4年目を迎え、仙台市内に住む被災された方々の状況は、今も刻々と変化し続けています。みらいん編集部は、そんな皆さんの再建に向けての取り組みや心模様取材し、本冊子を今年度、隔月で発行していきます。

次の一歩を踏み出すための情報紙として、または、懐かしい顔を見つける読み物として…。本紙が少しでも皆さんのお役に立つことができれば幸いです。

「みらいん」編集部一同

### 仙台発 震災復興 地域かわら版 みらいん [31号]

2014年7月1日発行

発行

仙台市

企画・編集

協同組合みやぎマルチメディア・マジック

岡崎裕子  
熱海奈穂子/網野武明/鉅鹿大輔/菊地明彦  
齋藤孝之/佐藤有希/芳賀幸子  
金子秀樹

印刷

ハリウ コミュニケーションズ株式会社

協力

河北新報社

特別協力 (五十音順、敬称略)

千田佐知子

お問い合わせ

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町 2-12  
協同組合みやぎマルチメディア・マジック  
「みらいん」編集部  
Tel.022-390-5755 Fax.022-390-5756  
kawara@meeee.or.jp



### 表紙のひと

(左から) 大友覚<sup>さとし</sup>さん 相澤竹浩<sup>たけひろ</sup>さん

「ここは、のどかで良いところですよ。空気もうまいし」と話す2人は、ともに若林区東六郷小学校の卒業生で同級生という「東六郷おやじの会」代表の大友さんと相澤さんです。以前から小学校PTAを主体として存在した同会を「何か母校や地域のために役に立ちたい」と、現在のメンバー6名の「おやじ」で約7年前に引き継ぎました。同会ではこれまでに夏祭りや催事の時にカレーや焼きそばをつくって、子どもたちに振る舞ってきた経緯があります。

震災後の活動は昨年、学校側からの「校内行事で、子どもたちがまたあのおやじカレーを食べたがっている」という連絡から始まりました。「おやじの味」を覚えていた子どもたちからのリクエストに応えるべく、メンバーが集まり辛口、甘口をつくって喜ばれました。その陰にはそれぞれの奥さんたちの協力もあるようです。

東六郷小学校は統合に向けた話し合いが行われていますが、「学校があるうちは活動をしていきたい」と語る両氏。「元気のある地域によみがえって欲しい」という言葉の向こうでは、元気なカエルの鳴き声が響いていました。

撮影場所/東六郷小学校校舎前 (若林区)

前略  
お元気  
ですか

菊地成子<sup>なるこ</sup>さん  
からの  
お便り



亘理町で被災し、太白区のあすと長町仮設住宅へ入居して三年が経ちました。狭いながらもひとり暮らしの自由さを楽しめるようになったのは、さまざまイベントで沢山の方々と知り合いになれたおかげですね。  
高橋さんもそんなお友だちのひとりです。あれは、宮城大学で行われた園芸・食品加工の体験会でした。広い畑で泥まみれになりながら、それでも夢中で作業をしました。初対面の私たちを和ませてくれたのは、高橋さんの明るさでした。高橋さんも私も含めて、仲間全員が今では強い団結力で結ばれていると思います。

偶然に知り合った私たちですけれど、きっとこれも何かのご縁です。あの震災では、とても悲しいことばかり起こったけれど、高橋さんをはじめ、おしゃべりしたり、一緒に笑ったりできる仲間ができたことに感謝しています。これからも、よろしくね。

お便りを  
受け取った  
高橋容子<sup>ようこ</sup>さんより  
成子さん、こちらこそいつもありがとうございます。畑作業に行く時は、いつも仲間の分までおかずをつくってきってくれる、料理上手な成子さんにはお世話になりっぱなしですね。いつも明るく元気で、まわりを明るくしてくれる姿に感謝しています。ありがとうございます！

### 皆で楽しくポストカードをつくってみませんか？

「みらいん」では、スタンプを押してポストカードをつくり、大切な人にあててメッセージを書く体験教室を開催します。教室でつくったポストカードの中から、次号のこのコーナーに掲載するハガキを選出します。はじめての方でも簡単にできます。ぜひご参加ください。参加無料。

- 参加にあたっては応募が必要です。下記をご覧ください。
- 対象者/東日本大震災で被災した、現在青葉区にお住まいの方10名。応募多数の場合、抽選とさせていただきます
- 開催日/7月26日(土)13:30~15:30
- 会場/宮城社会福祉センター(青葉区下愛子観音堂27-1)
- 応募方法/3ページの「みらいん」編集部お問い合わせ先に電話でご連絡ください
- 応募締切/7月18日(金)



同郷グループ  
**仙台あゆかわ会**

情報交換の場から同郷の方たちの拠り所に

代表の安藤努さん(後列左端)。石巻市鮎川浜出身の方を対象に参加者を募集しています。  
 問/〇九〇(七三三七)四八八三(事務局・平塚)



二〇二二年二月、代表の安藤努さんの呼びかけで「仙台あゆかわ会」が立ち上がりました。会員は石巻市の鮎川浜から仙台市近郊に避難してきた二十二名の皆さんです。「鮎川の情報が少なく、高齢のため石巻市になかなか帰れない人もいました。情報共有の場が必要だと思いました」と、安藤さんは当時を振り返ります。会では月に一度定例会

を行うほか、新年会やお花見会などの懇親会を開催し親睦を深めています。「時間の経過とともにそれぞれ置かれている状況が変わってきています。それでも同郷の皆で集まれる場として、今後も続けていきたい」と話す安藤さん。会は情報交換の場としてだけでなく、故郷の話を中心置きながら、皆さんの心の支えになっています。

特集 **私たち**

# 交流グループ 作りました。

仙台市や支えあいセンター主催の交流会の参加者が、自主的に設立したグループ。または震災前にご近所さんだった方々が自分たちでつくったグループなど、被災された方々が自分たちで笑顔になれる場をつくり始めています。

同郷グループ  
**おがつ ぶーふーうーの会**

「お互い様」の一言で助け合える雄勝を目指して

代表の山下恵美さん(前列右端)と荒川陽子さん(二列目左端)。雄勝町出身の方を対象に、参加者を募集しています。問/〇八〇(一八二二)〇七九五(山下)



石巻市雄勝町から離れてもふるさととつながりを保ちたい、と望む方々が集う「ぶーふーうーの会」は、震災後に同町出身の山下恵美さんが泉区南光台で地域生活支援活動をすすめる荒川陽子さんと知り合い、発足しました。「かつて存在した、結ぶのような相互扶助の精神で、今後も雄勝の住民がつながることが出来れば良い」と山下さんが考える通り、県内各地で雄勝の現況や催事の報告などを心待ちにしている出身者が定期的に集まっています。そこは同郷の顔なじみと出会うかけがえのない心安らぐ場、故郷の人がどこでどんな生活をしているのかを知る場になっており、皆が集まることで大きな力になっています。荒川さんは「地域の人が立ち上がり、自ら何とかしようという気持ちで沸き起こるよう、ともに考え、活動していきたい」と話します。

ともに取り組む手仕事は、心安らぐ大切な時間

## 仙台かえりびなの会



還暦を迎えた女性が贈られると、「人生をリセットできる」といわれる「還り雛」。震災後、この還り雛が神奈川県箱根町の女性から被災地の各所に贈られました。「震災から一歩踏み出してほしい」との願いが込められたものです。この贈り物に勇気をもらった方々が「自分たちでも還り雛をつくりたい」と立ち上げたのが「仙台かえりびなの会」です。「つくっていると気持ち

持ちが安らぐんです」と代表の高橋節子さん。同じ思いのメンバーとともに、安らかな時間を共有しようと活動しています。十一名のメンバーは毎週水曜日、当番制で雛を製作し、これまでに被災地の学校などに寄贈してきました。現在、青葉区・福祉プラザで活動する手作りサロン参加者のお手伝いもあり、和気あいあいと作品づくりを続けています。



代表の高橋節子さん(後列右から二番目)



文化継承を通じて地域交流を図る

二〇二二年九月に発足した「南蒲生雀乃舞」は、五歳から五十八歳まで約四十名で活動しています。震災前から祭連をつくりたいと思っていた皆さん。「文化継承に役立てて」という外国からの支援金が「仙台・青葉まつり協賛会」を紹介して届き、衣装や楽器などを揃えて活動が始まりました。また、「仙臺すずめ踊り連盟」からは踊りとお囃子の指導を受けるなど、たくさんの協力

の手が差し伸べられました。揃いの法被は、藍地に波しぶきと雀模様。「津波に負けられない」という思いから、あえて波模様にした」と、代表の二瓶透さん。「子どもたちが喜んで集まり、楽しんでいるのを見るのは、大人たちもうれしいし、やる気が出る」と、親子での参加が目立ちます。八月十六日(土)開催予定の「南蒲生夏祭り」に向けて、ますます張り切りです。

すずめ踊り祭連  
**南蒲生雀乃舞**



代表の二瓶透さん(後列左から二番目)





# 卓球グループ 中野ひより

気心知れた仲間と清々しい汗をかいて交流



▶会場予約を務めた菅野たまきさん(前列左端)と、現在引き継ぐ日野武光さん(後列右端)

宮城野区中野四町内出身の七名が、週一回、和気あいあいと卓球で交流を続けています。

「中野ひより」は、卓球好きで有志が二〇〇八年に立ち上げ、中野コミュニティ・センターで活動していました。当時のメンバーの一人が、震災の心労で別人のようになった様子を避難先で見て心配した仲間は、「こんな時だからこそ、好きなことで体を動かすことが大事」と卓球ができる場所を探し、二〇一一年六月から中野栄児童館で活動を再開。バラバラの地域で暮らすメンバーにとって、情報交換の場でもあります。毎回、前半の時間はそれぞれラリーを、後半は相手を替えてのダブル戦を繰り返して皆さん。「あくまで健康のため。皆で楽しく汗をかいて体が軽くなって家に帰ると、躍動感溢れる仲間たちです。」

# 交流グループ ひまわり会

思いを感じ、分かち合う、交流の場



▶代表の高橋明さん(前列右端)。宮城・岩手県沿岸部出身の方を対象に参加者を募集しています。問／〇八〇(五五六)九二二八(高橋)

青葉区の家庭健康課が主催する「みやぎ・いわて沿岸部交流会」の参加者有志で今年四月に立ち上げられた「ひまわり会」。毎月開かれていた交流会が今年度から年四回となったことで「自分たちでもっと交流の場をつくらう」と会を立ち上げました」と代表の高橋明さん。

会では月に一度、本願寺仙台別院教化センターを会場に交流サロンを開いています。参加者は宮城県、岩手県の沿岸地域から仙台市内に避難されている方々。それぞれにさまざまな思いを抱える皆さんが、サロンでまず行うのが自己紹介です。出身地と名前だけでも構いませんが、時には声を詰まらせたり、はたまた笑いを誘ったりしながら自らの状況を話し、お互いの心境を感じ合い、親睦を深めています。会では、今後も毎月第三金曜日にサロンを開催します。

# 交流グループ らくらく健康クラブ

人と関わりながら健康に暮らせる幸せ

宮城野区内の借り上げ民間賃貸住宅で暮らす皆さんが、今年一月に立ち上げた「らくらく健康クラブ」。支えあいセンター主催「らくらくリフレッシュ体操」に参加する有志が、「皆と一緒に活動に発展させたい」と、自主的な活動に発展させました。会員を募ると予想を超える反響がありました。丁寧な活動を考えて、四十名で締め切りました。



▶発起人の黒須はる子さん(中列右から三番目)と富岡悦子さん(前列右から二番目)

さまざまな地域で被害に遭われた方々が、いろいろな思いを経て集う同クラブのモットーは、人との関わりを通じて明るく楽しい毎日を送り、健康でいられること。記念すべき第一回は、太白区茂庭荘での懇親会。二十八名が参加し、健康講話・自己紹介ゲーム大会で交流し、食事を楽しまました。次回は、運動を絡めた活動を計画中です。

# 手芸グループ 手づくり手芸の会

時の経つのも忘れて夢中になれるから好き!

若林区六郷市民センターの一室に集まった、十数名の女性陣。黙々と手を動かしていたかと思うと、誰かの発したひと言をきっかけにして場がにぎやかになります。「手づくり手芸の会」は、震災の翌春から若林区井土の女性を中心にスタートしました。

代表の鈴木たか子さんは「仮設住宅の狭い空間に閉じこもっていると、心も体も調子が悪くなってしまいかす。現在は二十数名になるメンバーの中には、太白区四郎丸や長町から参加している方もいます。鈴木さんは「皆さんが友人を誘うというふうにして、自然に仲間が増えてきました。女性は手を動かすのが好きなんです」と微笑みま



▶代表の鈴木たか子さん(後列右端)

ら、気の合う仲間と縫い物でもしよようと集まったのが始まりです」と語ります。



宮城野区



愛する岡田の地で再建を  
久保野地区造成工事完了

宮城野区岡田の新浜地区から16世帯、南蒲生地区から3世帯の計19世帯が自主的に移転する久保野地区。大雪や大雨などの影響で造成工事、上下水道や道路などのインフラ整備が遅れが生じましたが、6月末には全ての工事が完了する予定です。市の竣工検査や各世帯の諸手続きを経て、8月末には宅地引き渡しができる予定。柱状改良と表層改良で強固な地盤改良がされた土地に、9月1日から家の建築が可能となる予定です。

若林区・宮城野区



地域の暮らしを守る  
通称「防災無線」が復旧・増設

沿岸部には津波警報や避難情報を一斉に伝達する「仙台市津波情報伝達システム」の屋外拡声装置(通称「防災無線」)が設置されています。高いポールに拡声器がついたこの装置は、震災前に50基あり、38基が被災しましたが、昨年度までに従前の50基が復旧し、更に20基が新設され、現在70基で運用しています。大きな地震を感じた際や「防災無線」から音声聞いた場合には、テレビ・ラジオ、緊急速報メールなどに注意しましょう。

今年も跳ねた!踊った!  
(青葉区・市民広場他)

仙台・青葉まつりで大観衆を前に元気なリズムを披露したのは、卸町5丁目公園仮設住宅の入居者を中心とした「絆舞卸町雀祭連」でした。



可愛い眼鏡ケースができました  
(太白区・中央市民センター)



借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方が参加した「ほのぼの中央サロン」。この日は、ばね口金を使った眼鏡ケースづくりです。作業中は静まり返り、皆さん真剣な表情で没頭していました。完成後は「この柄キレイね」「あなたの組み合わせもステキだね」と話を弾ませていました。

地域の方と初の交流会  
(太白区・声のコミュニティセンター)



声の口復興公営住宅入居者同士の交流と地域の活動団体の紹介の場として、「声の口復興公営住宅顔合わせ会」が開かれました。この日は入居8世帯が参加。篠笛の演奏に耳を傾けたり、体操したりするうちに緊張も解きほぐれ、会場全体が和やかな雰囲気になりました。

踊りに大興奮  
(太白区・あすと長町仮設住宅)

「第12回京都学生祭典実行委員会」の皆さんが、オリジナル創作おどりを披露。にぎやかな様子に誘われて多くの人が広場に集まりました。



折立東部復興へ向けて  
(青葉区・折立市民センター)



折立団地東部町内会被災復興の会の役員会議が行われました。現在着中の折立5丁目の復旧工事進捗状況が報告され、今後の地域づくり、震災からの歩みを記録に残す方法などが議題となったほか、今後の会のあり方についてなども含め、活発な議論が交わされました。

働いた後は美味しい昼食です!  
(若林区・荒浜)



毎月深沼海岸付近を清掃しているのは、「荒浜再生を願う会」のメンバーとボランティアの皆さんです。肌寒い季節も過ぎ、外で活動することが苦にならなくなりました。清掃活動後に皆さんを待っていたのは、出来たての豚汁とピザです。焼きたてピザは若者に大人気でしたよ。

のど自慢で交流  
(青葉区・宮城社会福祉センター)

借り上げ民間賃貸住宅の方を対象に開催されている「ほっこりふれんどサロン」。この日の演目はカラオケです。皆さん自慢の歌声を披露しました。



みやぎの「花は咲く」コンサート  
(宮城野区・宮城野区文化センター)



震災後、避難所や仮設住宅で小さな演奏会を開いてきた仙台フィルハーモニー管弦楽団と、被災した方々の有志合唱団による合同コンサート。心こもった「花は咲く」の歌声がホールに響き渡り、観客からは「私もステージで歌いたかった」との声が聞かれました。

桜はなくても「花見」  
(泉区・七北田公園)



県内外の沿岸部から泉区に避難した方々で構成される乙女の会。気持ちの良い陽気の中、お弁当とお茶を楽しみました。「皆、旦那の遺族年金で暮らしてられるんだ」と笑い合い、「ちょっと前はこうやって笑うことも出来なかったんだよね」と時の経過を確認した皆さんです。

立派なかぶとができました  
(太白区・NTT三神峯社宅)

借り上げ集合住宅のふれあい喫茶でかぶとづくり。「かぶと忘れて帰ってしまったねえべか」「かぶつて帰れば忘れねえぞ」会話も楽しめました。



春うらの合同お花見会  
(宮城野区・扇町1丁目公園仮設住宅)

仮設住宅敷地内の満開の桜の下、区内4つのプレハブ仮設住宅約70名で合同お花見会を開きました。2つの支援団体によるおもてなしです。



南蒲生交流会～Spring～  
(宮城野区・南蒲生地区)

地域住民の交流会へ。農業法人「みちさき」の見学、「琉球国祭り太鼓」演奏や、特製「トマト鍋」のお振る舞いなど、にぎやかな一日となりました。



お花見日和で良かったね  
(若林区・日辺徳照寺)

暖かな日差しの下行われたのは、藤塚地区の老人クラブ「貞山会」のお花見です。久しぶりに顔を合わせる人も多く、話は尽きませんでした。



4月～5月

みらい編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

復興分散会  
(宮城野区・鶴巻1丁目東公園仮設住宅)



復興公営住宅への入居などでプレハブ仮設住宅を退去する方が増えるのを前に、集会所で分散会が行われました。同じ敷地で過ごしたご縁に感謝し、新たな一歩がスタート。13日(日)には同区高砂1丁目公園仮設住宅で同様の催しが開かれました。

“お花畑”で入学式  
(宮城野区・中野栄小学校音楽室)



東日本大震災で甚大な津波被害を受けた中野小学校は、中野栄小学校に併設して授業を行っています。2016年3月に閉校が決まった同校ですが、今年もピカピカの1年生、小竹優梨さんと山田琉夏さんの2名が入学。先生方が鉢植花で会場を飾り、新しい仲間を迎えました。



## 燕沢エリア (宮城野区)

▼蕎麦会でつくる楽しさと  
食べる楽しみを一緒に



# これから 住むまち

## 地域のつながりを再構築、 活気あるまちづくりをめざして

### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①西山児童館 乳幼児～子ども向け定例活動のほかにも、子育て中の保護者向けに「おしゃべりサロン」が毎週月・水・金曜日に開催中。小学生向け野外活動や、60歳までの大人を対象とした健脳健骨運動など多彩な活動を行っています。
- ②西山小学校 学校支援地域本部 「学校を地域の学びコミュニティに」という方針で、放課後子ども教室「ニコニコにしまっくクラブ」、休日版の「西山っ子ニコニコ菜校」など、アイデア豊富な活動を展開しています。
- ③蕎麦会(きょうらくかい) そば粉を各自持ち寄って蕎麦を打ち、その場で食べ比べはいかがですか? 東仙台コミュニティセンターで毎月第4日曜日10:00~13:00 会員は現在10名 問/022-293-1058(瀬上)
- ④プリティヴィ・ヨーガ 体調管理とメンタルに良く効く、週に一度のリフレッシュ・ヨーガで心と体のお掃除を。東仙台コミュニティセンターで毎週水曜日19:00~20:30 問/090-9536-2522(坂本)
- ⑤燕沢地域包括支援センター 介護が必要な状態にならないように、燕沢公園集会所で年4回、介護予防教室を開催しています。同時に地域サポーターの育成も行っていきます。



▲西山児童館には絵本やおもちゃがたくさん



②西山小学校 学校支援地域本部



①西山児童館

# これから 住むまち

これから整備される復興公営住宅、  
防災集団移転促進事業の宅地ができる地域の様子と、  
地域で交流を楽しむ方々をご紹介します。

## 落合エリア (青葉区)



③栗っこネットワーク

## 「向こう三軒両隣」が合言葉 利便性の高い住宅地



⑤ほっこりふれんどサロン

▲ほっこりフレンドサロンが  
行われる宮城社会福祉セ  
ンターでは、復興地蔵がお  
出迎えしてくれます



①落合栗生連合町内会



②落合栗生地区社会福祉協議会



④復興朝市「広瀬ふれあい市」

▲広瀬ボランティア連絡協議会  
のサロンで作成した人形

### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①落合栗生連合町内会 約3000世帯11町内会が所属する連合会。各町内会との融和を図りながら、安全で安心できる減災の地域づくりへ向けて活動しています。同連合町内会と地域団体の共催による地区大運動会には、毎年800人以上の住民が参加しています。
- ②落合栗生地区社会福祉協議会 月1回開催のサロン「憩いの家」には、地域に住む65歳以上の方たちが参加。茶話会などを行っています。
- ③栗っこネットワーク 栗生小学校区内で、地域福祉の向上や子どもたちの健全育成、障害児理解を目標に、地域と学校が連携。年間を通じて「川あそび」などの多彩なイベントを開催しています。
- ④復興朝市「広瀬ふれあい市」 毎月第2土曜日に宮城社会福祉センター駐車場で開催。地域で活動する広瀬ボランティア連絡協議会が主催しています。同協議会では仙台フィルを招いての室内コンサートやサロン、講習会なども行っています。
- ⑤ほっこりふれんどサロン 青葉区社会福祉協議会宮城支部などが実施する被災者向けのサロン。今年度は年6回、宮城社会福祉センターで開催予定です。

落合エリアは、奥羽山脈から続く番山丘陵のふもと  
愛子盆地の平坦地に位置します。街中には「斉勝川」が  
流れるなど、豊かな自然に囲まれた街並みが魅力。住  
宅地や公共施設のほか、商業施設や病院施設などが  
続々と整備され、周辺人口は年々増加傾向にあります。  
もともとJR仙山線や国道四五七号線に隣接するなど  
交通の便が良好なことから、今後ますますの発展が  
期待されているエリアとなっています。

連合町内会を中心とした住民同士の交流も盛ん。「向  
こう三軒両隣」を合言葉に、地域の人々が一丸となっ  
て、年間を通じさまざまな交流イベントを実施してい  
ます。落合復興公営住宅の工事の進捗具合は、五月下  
旬現在で基礎工事中となっています。



## 卸町エリア (若林区)



◀10-BOX別館「能-BOX」にある能舞台は、個人の稽古用として建造されたものを移築しています



④演劇工房 10-BOX



⑤IMS 磯貝メソッド仙台塾



◀青葉アートスクールはスケッチから水彩、油絵まで、老若男女が楽しめる教室です



⑥青葉アートスクール



①大和学区体育振興会



②大和地区社会福祉協議会

## これから住むまち

快音を響かせていた  
ゲートボールのスティック▼



②新田学区民体育振興会



③新田鶴翔太鼓



④荒浜文庫



⑤シニア健康エクササイズ

①新田学区連合町内会



## 伸び盛りの 新しいまちづくりに積極的な参加を

新田東エリアはJR小鶴新田駅、新田東総合運動場、新田小学校があり、また国道四号線、四十五号線、利府街道にも囲まれ交通の便がよい人気の町です。

JR東仙台駅の南東に広がる歴史ある新田地区と、新しい新田東地区をまとめるのが新田学区連合町内会です。「新田地区はすでに新田東地区を迎えた経験がありますから、近所づきあいの不安などは無用ですよ」と橋川光男連合町内会長は語ります。

新田コミュニティセンターと新田小学校を軸として関係各団体と連携をとって活発な行事が行われており、町内会では積極的な参加をいただけるよう広く呼びかけています。新田東復興公営住宅の工事の進捗具合は、五月末現在で設計協議中。六月着工の予定です。

## 東北有数の流通拠点。文化の薫りも漂うエリア

### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①大和学区体育振興会 地域住民の健康増進と親睦が目的の「大和小・学区民大運動会」は、小学校や各町内会が連携しながら開催。地域の絆を深めるのに役立っています。
- ②大和地区社会福祉協議会 借り上げ民間賃貸住宅の人たちを対象にした「餅つき大会」などのイベントを開催します。
- ③青葉アートスクール 「青葉画荘」2階にある教室で、それぞれの力量に合わせた多彩な講座が行われています。見学や無料体験も可能。問/022-231-4228 (青葉アートスクール)
- ④演劇工房 10-BOX 「試しながらじっくり演劇を創る空間」がコンセプト。舞台スペースの貸し出しや劇に関する講座のほか、誰でも自由に利用できる工作室や資料室を整備。能を学べる別館「能-BOX」もあります。問/022-782-7510 (10-BOX)
- ⑤IMS 磯貝メソッド仙台塾 呼吸や発声、言葉の表現などをトレーニングする「声とことばを学ぶ」講座を10-BOXで実施。問/090-2846-3764 (IMS 磯貝メソッド仙台塾事務局)

仙台のみならず、東北有数の流通拠点としての役割を担う卸町エリア。おもに卸売業などが集積する商業地として知られていますが、近年は新たな時代の流れの中、街をとりまく環境も変化しつつあります。来年開業予定の地下鉄東西線の開通を機に、従来の商業地としての機能はもちろん、居住地や文化拠点が融合した活気あふれる複合市街地を形成。魅力ある街並みの整備を進めています。

卸町復興公営住宅が建つ場所は、大和地区連合町内会に含まれています。町内の方は、同連合町内会を中心としたさまざまな活動に参加しています。また文化施設では、演劇や絵画などのアートを体験できます。卸町復興公営住宅の工事の進捗具合は、五月下旬現在で設計協議中。十月の着工予定となっています。

各復興公営住宅の立地や間取りなどの情報は「平成26年度復興公営住宅情報」(仙台市都市整備局復興公営住宅室発行)でご確認ください。冊子をご覧になりたい方は、現在お住まいの区役所まちづくり推進課にお問い合わせください。  
青葉区/022-225-7211、宮城総合支所/022-392-2111、宮城野区/022-291-2111、若林区/022-282-2111、太白区/022-247-1111、泉区/022-372-3111 (すべて代表番号)

### 地域の町内会 & 交流グループなど

- ①新田学区連合町内会 新田5町内会合同盆踊り大会は、新田小学校の児童が総出で神輿行列を行うため、新田町内会が一体となったにぎわいに包まれます。
- ②新田学区民体育振興会 新田学区の各種スポーツ大会を、新田学区連合町内会と連携して運営しています。今年からグランドゴルフが加わり、計6種目プラス学区民体育祭と、年間通じて地域の健康増進に役立っています。写真は春季ゲートボール大会の様子、7チームが参加しました。
- ③新田鶴翔(かくしゅう)太鼓 新田と小鶴をつなぐ文化活動の核として設立されました。6歳~小中学生~一般まで参加者随時募集。毎週日曜日16:00より新田5丁目太鼓道場で練習しています。(見学自由) 問/080-5577-2005 (村上)
- ④荒浜文庫 若林区荒浜から移転されてきた家庭文庫です。自宅の居間を開放し、全国からの支援で集まった約1500冊の蔵書から一人5冊まで2週間借りられます。毎週水曜日13:30~16:30 (利用無料) 問/022-778-8117 (二瓶)
- ⑤シニア健康エクササイズ 元気フィールド仙台で毎週木曜日13:30~14:30に開催。シニア(60~70歳代)向けのストレッチからウォーキングまで、休憩を挟みながら無理なく楽しく体力づくりができるエクササイズです。受講料は1回300円で5回に1回無料なもの魅力です。問/022-231-1221 (元気フィールド仙台)



▲新田鶴翔太鼓は年間15~20のステージ演奏の予定があります



# 読者からひとこと

読者の皆さんが普段何気なく思っていることをはじめ、皆さんからのお知らせなどをお届けするコーナーです。お茶飲みしながら、のんびり読んでくださいね。

●五月に若林区若林西復興公営住宅へ入居しました。やはり、新しい部屋はうれしいですね。まだ慣れていないから、使い勝手は何とも言えませんが、広いペランダがお気に入りです。 春日井政秀さん

●震災から千日目に開催された、宮城野区高砂町内会長の高橋親夫さん撮影による「ふるさと蒲生写真展」で展示したものを冊子にまとめて、宮城野区高砂市民センター窓口で配布中です。ぜひお手に取りご覧ください。 一同より

「未来に伝えたい中野・岡田の会」

●あすと焼き陶芸愛好会(あすと長町仮設住宅入居者有志)の作品展覧会を開催します。七月三十日(水)から八月二日(土)まで、SMBコンシューマーフィナンス棟二階イベントスペース(地下鉄仙台駅中央二番出口出でず)。入場は無料です。問/〇九〇(一〇六四)九七六四(門馬) 門馬福治さん

## 情報ボランティア@仙台 交流サロン紹介



## ぽっかぽかサロン

「ぽっかぽかサロン」は、若林区の七郷市民センターで毎月第二金曜日に開かれています。地元に住む主婦のボランティアグループ「ぽっかぽか」を中心に、被災した地域の高齢者と移転してきた方との交流のため、二〇一二年七月から続いています。

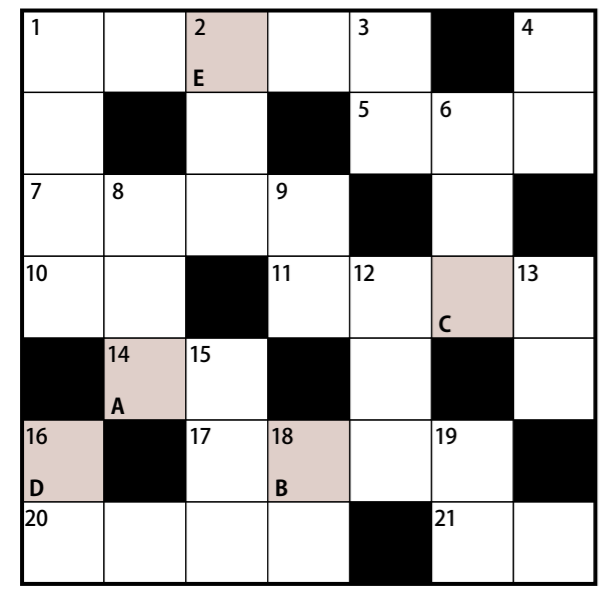
五月のサロンでは、参加者二十六人が音楽家の演奏に耳を傾け、茶話会でくつろぎました。参加者の佐藤利幸さんは「ここに来ると、同じ境遇の人と話ができ、気持ちが晴れる」と、穏やかな時間を楽しんでいました。

サロンは毎回、手芸教室や演芸などで盛り上がり、スタッフ手づくりのお菓子も味わえます。会長の庄子義さんは「一服できる場を今後も共有したい」と話していました。

◆連絡先 〇二二(七八一)〇五五九(支えあいセンターわかばやし)、開所時間…八時三十分～十七時(月～金曜日)

取材：大島湧未@東北福祉大学、上田弘大@東北大学  
情報ボランティア@仙台 ブログでも発信中です。 <https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16> (「河北新報オンラインコミュニティ」ブログ)

## クロスワードパズル



### タテのカギ

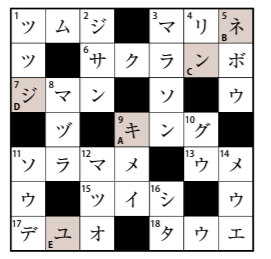
- ①8月6～8日に開かれる「仙台七夕まつり」。七つ飾りのひとつで、願い事を書くのは?
- ②暦の上ではこの日から夏
- ③詞に旋律やリズムがつくと?
- ④三陸の海の幸。酢の物などで食され、「海のパイナップル」とも呼ばれます
- ⑥〇〇〇〇乞いといえば、休暇を願い出ること
- ⑧県内でも溪流釣りが楽しめます。「岩魚」と書く魚
- ⑨海開きの頃からオープン。更衣室や軽食などを提供してくれる、海の〇〇
- ⑫人に頼りっぱなしは、おんぶに〇〇〇
- ⑬仙台が発祥の地といわれる冷やし中華。たれと具、〇〇の一体感
- ⑮夏の味覚の代表格。「西瓜」と書く果実
- ⑯日食の際、地球と太陽との間に入る星
- ⑰ことわざ。〇〇を憎んで人を憎まず
- ⑲ボラやブリなど、成長に従って名称が変わるのは出世〇〇

### ヨコのカギ

- ①今年は、7月20、21日に開催される「塩竈みなと祭り」。100隻を超える船が〇〇〇〇〇〇旗をなびかせて疾走します
- ⑤クルマや自転車でパンクするのは?
- ⑦政界に対して、資本家や経営者の世界
- ⑩田畑を耕す、「鋤」と書く農具
- ⑪おなじみのずんだ餅の原料も、これからが旬
- ⑭仙台市で400年以上の伝統があり、漬け物が美味の長〇〇
- ⑰一度考えてみること
- ⑳7月31日と8月1日、「石巻川開き祭り」が開かれます。ここで指す川とは、〇〇〇〇川のこと
- ㉑気仙沼市の〇〇の浜海水浴場をはじめ、7月下旬頃から海開きの予定も

### 前回のこたえ

A キ B ネ C ソ D ジ E ユ  
でした。



## ご招待

### 仙台フィル定期演奏会にご招待します

仙台フィルハーモニー管弦楽団は復興支援活動の一環として、定期演奏会に「復興パートナーシート」を設けて、被災された方々をご招待します。

■対象：東日本大震災で半壊以上の被害を受けた方  
※未就学児童の入場はできません

■招待者数：1公演につき先着30名様  
※お一人様1回限り、1公演につき1世帯3名様まで

■日時 ①9月26日(金)・27日(土)  
②10月24日(金)・25日(土)  
③11月28日(金)・29日(土)  
※開演時間は、各公演とも19:00(金曜日)、15:00(土曜日)

■場所：日立システムズホール仙台  
(仙台市青年文化センター)コンサートホール

■申・問：申込受付中(申込締切は各公演日の20日前)  
●022-225-3934  
仙台フィルハーモニー管弦楽団

## 参加者募集

### 「花は咲く」合唱団の参加者を募集します

宮城野区在住の被災した方に、合唱を通じて交流する機会をつくりたい。毎月1回プロの音楽家の指導のもと、合唱の練習を行います。このほか健康体操や茶話会も行います。お気軽にご参加ください。

■対象：45名程度(おおむね60歳以上の方)

■日時：2014年8月～2015年3月  
毎月1回 平日 10:00～11:30

■場所：仙台市高砂市民センター

■参加料：1回あたり100円

■申・問：7月7日(月) 10:00 電話受付開始  
[7月14日(月) 申込締切]  
●022-797-0233  
(公財)音楽の力による復興センター・東北  
●022-291-2111 (内 6132)  
宮城野区まちづくり推進課

## 仙台市からのお知らせ

### 中野小学校閉校準備委員会を開催しました

平成27年度末(平成28年3月末)に閉校する中野小学校について、閉校の準備に関する情報共有や調整を行うため、学校・保護者・地域関係者などによる「閉校準備委員会」を設置し、6月10日(火)に第1回会合を開きました。

当日は、本委員会の検討事項やスケジュールの確認、閉校記念事業に関する意見交換などを行いました。委員の皆さんからのご意見を踏まえ、次回以降さらに具体的な話し合いを進めていく予定です。

詳しくは、教育委員会ホームページ(<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/index.html>)をご覧ください。

第2回会合は10月頃に開催する予定です。

### 荒浜小学校の統合について

平成28年4月に七郷小学校に統合する予定です。今後統合に向けた準備を進めていきます。

■問い合わせ  
022-214-2162  
仙台市教育委員会事務局学事課



お母さんたちの知恵で種類豊富な

# 「寒天流し」

ふるさとに  
ごっつおさん

我が家で受け継がれてきた  
郷土の味、紹介します。



## 材料・レシピ

### シイタケ寒天の材料とつくり方(4号バット1台分)

- 棒寒天 2本      ○干しシイタケ 10枚
  - 水 600cc      ■砂糖 大さじ3
  - 砂糖 230~260g      ■醤油 大さじ2.5
1. 干しシイタケを分量外の水で戻して刻み、鍋に戻し汁250~300ccと■を入れ、シイタケに味が染みるまで煮る
  2. 別の鍋に水を入れ、沸騰したら弱火にし寒天を溶かす
  3. 寒天が溶けたら砂糖と1の煮汁120~200ccを入れる
  4. 容器に3を流し、シイタケを散らし、冷やして完成

### フルーツ寒天の材料とつくり方(3号バット1台分)

- 棒寒天 3本      ○砂糖 400g
  - 水 800cc      ○好きな果物の缶詰 適量
1. 鍋に水を入れて、沸騰したら弱火にし寒天を溶かす
  2. 寒天が溶けたら砂糖と缶詰のシロップ150ccを入れる
  3. 容器に2を流し、刻んだ果物を散らし、冷やして完成

仕出し屋が普及していなかったころ、仏事などの精進料理は各家庭でつくられていました。精進料理に使われることの多かった寒天を、宮城野区岡田の新浜地区では「寒天流し」と呼び、仏事以外の祝い事にもつくるなどして親しまれてきました。「精進料理では緑と白が基本なんだけど、おめでたい時には赤くしたりして華やかだったのよ」と教えてくれたのは村主節子さん。食べる機会の多かった「寒天流し」は飽きないようにと工夫がなされ、落花生の粉末やくるみを入れるなど、さまざまな種類がつけられたと言います。「うちでは四十九日には決まってシイタケを入れた寒天流しをしたの。お正月とかはフルーツを入れたわ」と、家庭ごとに“我が家の定番”がありました。レシピを教えてくれた村主さんは最後に「寒天を勢いよく流すと表面に泡ができちゃうから気を付けて。具材を入れる時は寒天が少し冷めてから。熱いと沈んでしまうからね」と、アドバイスしてくれました。